

ONE  HEART



令和元年東日本台風災害からの 復旧・復興に向けた取組状況について

長野市企画政策部
復興局復興推進課

1 河川の復旧状況【総括】

令和2年9月1日現在

管理者	河川名	地区	箇所数	進捗状況	備考
国	千曲川	長沼(穂保)	1	完了	決壊箇所70mの復旧延長140m
		長沼(穂保)	1	76%	上記箇所の上下流420m
		篠ノ井塩崎	1	完了	からねこ神社付近
県	浅川	豊野	4	95%~完了	
	三念沢	豊野	1	85%	
	赤野田川	若穂	3	40%~完了	
	保科川	若穂	4	5~80%	
	蛭川	松代	1	完了	
	神田川	松代	1	75%	
	藤沢川	松代	1	5%	
	岡田川	篠ノ井	1	25%	
	聖川	信更	3	5~90%	
	犀川	信更	1	35%	
市	高岡川	若穂	1	5%	1,2,3工区契約済
	唐沢川	若穂	1	完了	
	銅山川	松代	1	70%	

1-1 千曲川(国管理河川)の復旧状況①

- 令和元年10月13日に堤防が決壊した長沼地区穂保地先では、令和2年6月10日に復旧工事が完了
- 令和2年度内に決壊箇所前後の560m区間の堤防強化工事を実施

長沼地区穂保(令和元年10月13日)

川裏側(宅地側) 施工延長 560m
(川表側はR3.3月末完了)

決壊箇所 (完了)
川表側 施工延長140m

長沼支所





長沼地区穂保(令和2年7月)



のり面をコンクリートで被覆予定

決壊区間
施工延長140m

川側

堤防上部の舗装完了(川側決壊箇所)

のり面・上部(宅地側)のコンクリート被覆及び
土による被覆完了

宅地側

長沼支所

【今後の予定】
決壊区間を除く川側のり面 (赤破線部)
のコンクート張り及び土による被覆工事
年度内の完了予定

長沼地区穂保

■のり面 コンクリートブロック設置後、土により被覆中



土による被覆が完了し、緑化されたのり面



■上部 コンクリートブロック設置



土による被覆及びアスファルト舗装



1-1 千曲川(国管理河川)の復旧状況⑤

- 篠ノ井地区塩崎では、宅地側のコンクリートによる法尻補強が完了
- 出水期後、川側の法面についてコンクリートによる被覆を今年度中に完了予定

R2.5月

宅地側



R2.5.15 撮影

篠ノ井地区塩崎

復旧延長 L=688m

R2.8月

宅地側



R2.8.4撮影

【浅川】護岸の復旧は、7月末までに完了

【三念沢】欠壊した堤防の復旧は、4月末までに完了。浅川との合流点付近の護岸の復旧は、9月末までに完了予定

浅川



三念沢



1-3 岡田川・聖川(県管理河川)の復旧状況

【岡田川】 欠壊した護岸の復旧をコンクリートブロックにより実施中。概ね12月までに完了予定

【聖川】 千曲川との合流点付近の堤防の復旧は、6月末までに完了。その他の欠壊した護岸の概ね12月までに完了予定

岡田川



聖川



1-4 神田川・蛭川(県管理河川)の復旧状況

【神田川】 欠壊した堤防の復旧を盛土とコンクリートブロックにより実施中。堤防の復旧は、概ね10月までに完了予定

【蛭川】 欠壊した堤防の復旧は、5月末までに完了

神田川



旧屋代線の鉄橋



蛭川



1-5 保科川・赤野田川(県管理河川)の復旧状況

【保科川】 欠壊した護岸の復旧をコンクリートブロックにより実施中。護岸の復旧とともに、流出した県道の復旧（アスファルト舗装）を含めて概ね12月までに完了予定

【赤野田川】 欠壊した護岸の復旧は、7月末までに完了

保科川



赤野田川



第1工区～第3工区の工事契約が完了し、復旧工事の着手に向けた準備が進行

高岡川

R2～R3 改良復旧実施予定 全復旧延長 L=1,561m

- ・第1工区 R2.6.29契約 (株)日拓
請負金額 105,435,000円
- ・第2工区 R2.8.7契約 (株)川瀬工務店
請負金額 126,500,000円
- ・第3工区 R2.8.7契約 (株)大松建設
請負金額 116,325,000円
- ・第4工区 R3.6 公告予定



2 排水機場・雨水ポンプ場の復旧状況【総括】

災害復興計画／1-3-1治水・治山対策

13

令和2年9月30日現在

管理者	施設名	所在地	進捗状況(%)	ポンプ能力復旧率	備考
長野平 土地改良区 (市へ管理委託)	浅川第一排水機場	小布施町	10%	7%	R4.3月本稼働
	浅川第二排水機場	小布施町	80%	100%	本稼働
	長沼排水機場	長沼	40%	100%	R3.4月本稼働
市	大道橋排水機場	豊野	100%	100%	本稼働
	赤沼雨水ポンプ場	長沼	30%	100%	R3.3月本稼働
	三念沢雨水ポンプ場	豊野	30%	100%	R3.3月本稼働
	沖雨水ポンプ場	豊野	30%	100%	R3.3月本稼働
	小森第一排水機場	篠ノ井	80%	100%	本稼働

※ポンプ能力復旧率：仮設備による復旧を含めた従前のポンプ能力に対する復旧率

復旧等のための機械や設備などを工場にて製作中



<浅川第二排水機場>



<三念沢雨水ポンプ場>



<小森第一排水機場>

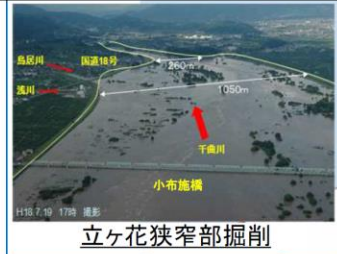


<沖雨水ポンプ場>

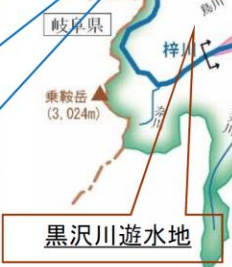
3 信濃川水系緊急治水対策プロジェクト①(主要対策の進め方)

上下流や本川支川の信濃川流域全体を見据え、

- 立ヶ花狭窄部上流の緊急的な堤防強化(粘り強い河川堤防構造)
- 下流から計画的に行う堤防整備や河道掘削(大河津分水路改修、立ヶ花狭窄部掘削)
- 上流で洪水を貯留するダム(大町ダム等再編)や遊水地の整備といった河川におけるハード対策をフル動員し、各管理者が連携・調整しながら、段階的かつ緊急的に対策を講じる。

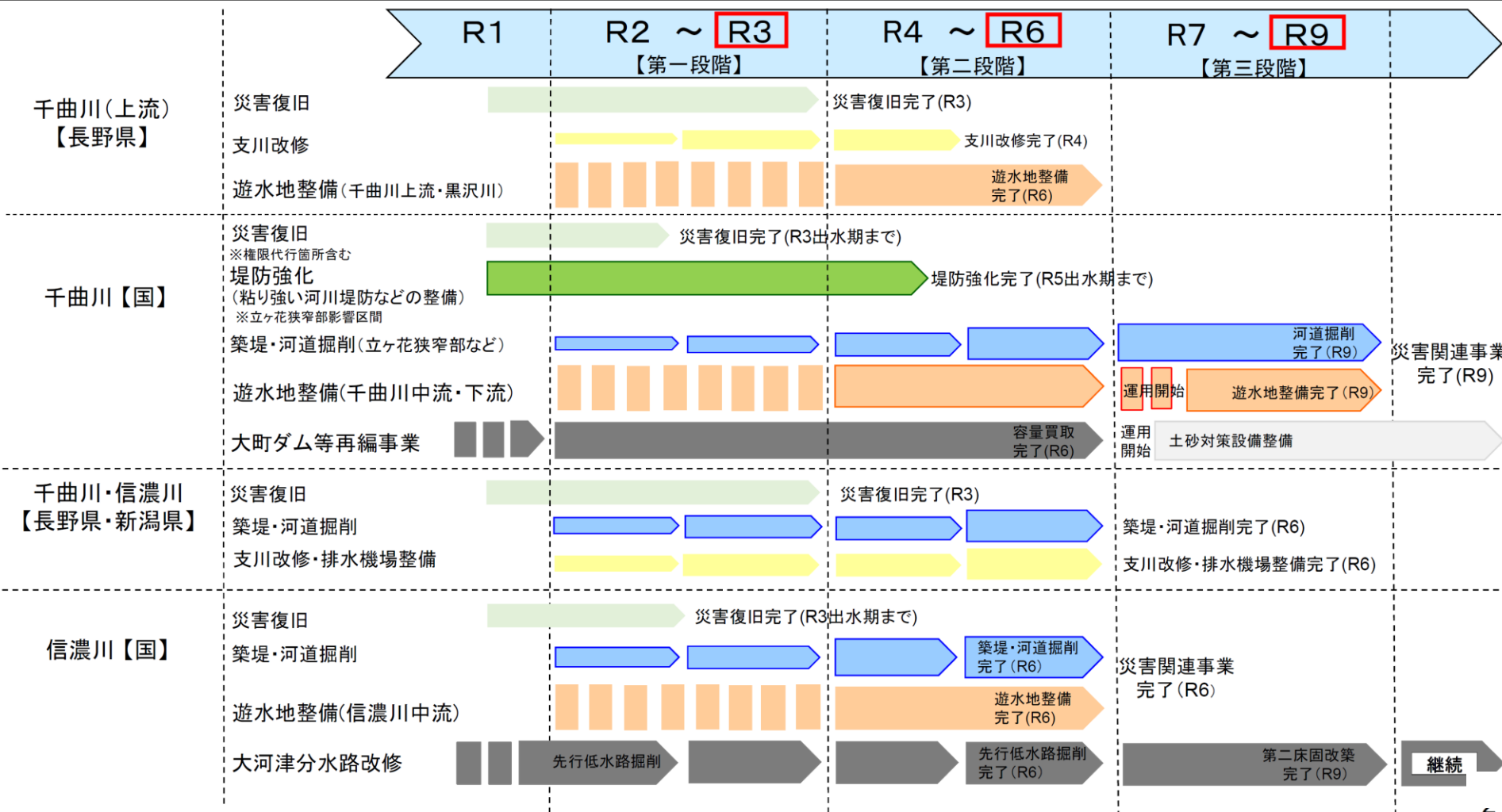


凡例	
	流域界
	県境
	河川
	既設ダム(直轄)
	基準地点(高水)
	基準地点(低水)
	主要地点
	想定氾濫区域(国管理区間)
	大臣管理区間



3 信濃川水系緊急治水対策プロジェクト②(ロードマップ)

- 【第一段階(復旧)】災害復旧を令和3年度までに完了(国(権限代行含む)は令和3年出水期まで、県は令和3年度)。並びに大河津分水路などの下流域の整備に応じた河道掘削(立ヶ花狭窄部など)を順次実施
- 【第二段階(復興)】改良復旧である堤防強化(粘り強い河川堤防構造など)や遊水地、大町ダム等再編事業(容量再編)を完了
- 【第三段階(復興)】遊水地、河道掘削(立ヶ花狭窄部など)を令和9年度完了



<出典:国土交通省千曲川河川事務所>

3 信濃川水系緊急治水対策プロジェクト③(事業スケジュール)

- 引き続き、立ヶ花狭窄部～村山橋間の堤防強化(越水対策)について順次実施
- 上下流バランスや氾濫域のリスク等を総合的に勘案しつつ、令和2年度から千曲川本川の水位低下を目指し、立ヶ花狭窄部などの掘削を段階的に進める。
- 遊水地の整備に向け、現地踏査、配置計画検討を行い、順次関係機関・地元と調整を進める。
- 信濃川水系緊急治水対策プロジェクト終了後においても、上下流バランスを図りながら引き続き河道掘削等を行い、順次治水安全度の向上を図る。



立ヶ花狭窄部

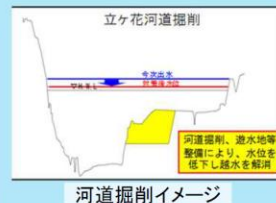


<河道掘削>

①【戸狩狭窄部】河道掘削	R2							R3	R4	R5	R6	R7	プロジェクト 総論
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月						
掘削計画の検討	→												
関係機関調整 (地元説明含む)													
工事													

②【立ヶ花狭窄部】河道掘削	R2							R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	プロジェクト 総論
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月									
掘削計画の検討	→															
関係機関調整 (地元説明含む)																
工事																

③【立ヶ花上流部】河道掘削	R2							R3	R4	R5	R6	R7	プロジェクト 総論
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月						
掘削計画の検討													
関係機関調整 (地元説明含む)													
工事													



<堤防強化> ※堤防復旧区間除く

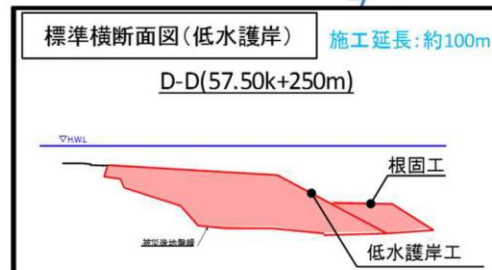
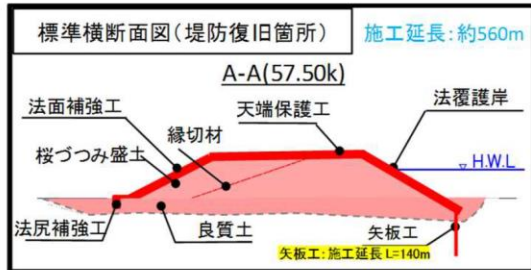
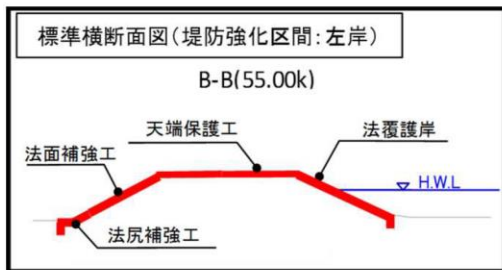
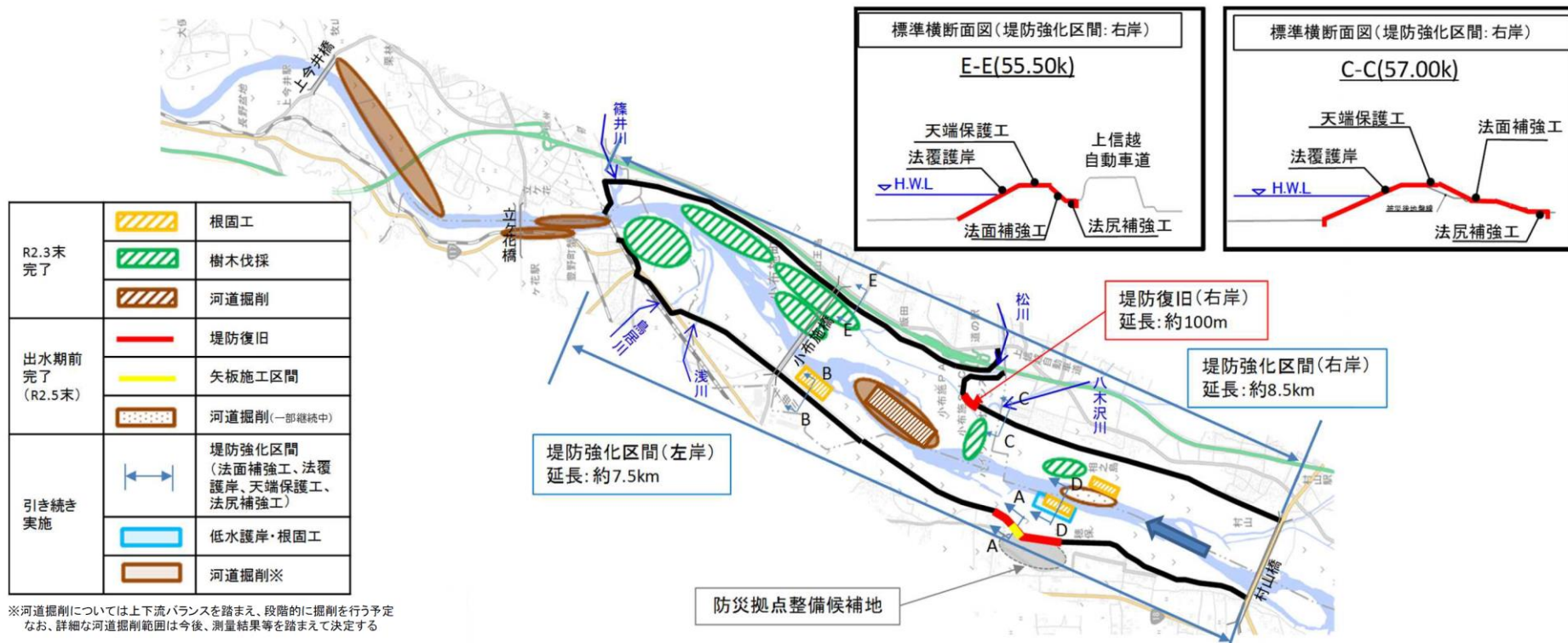
④堤防強化	R2							R3	R4	R5
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
堤防強化工法の検討	→									
学識者の意見徴収										
関係機関調整 (地元説明含む)										
工事										

<遊水地>

⑤遊水地	R2							R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月								
遊水地計画の検討	→														
関係機関調整 (地元説明含む)															
現地踏査・現地調査 (測量・地質等)															
工事															

4 千曲川堤防強化、河道掘削等の状況

- 立ヶ花上流区間にて実施した堤防復旧、河道掘削等の箇所、これから引き続き実施する箇所等は以下のとおり
- 今後は、穂保地先の堤防復旧箇所(施工延長約560m)以外においても、信濃川水系緊急治水対策プロジェクトの中で引き続き、堤防強化対策等を実施予定



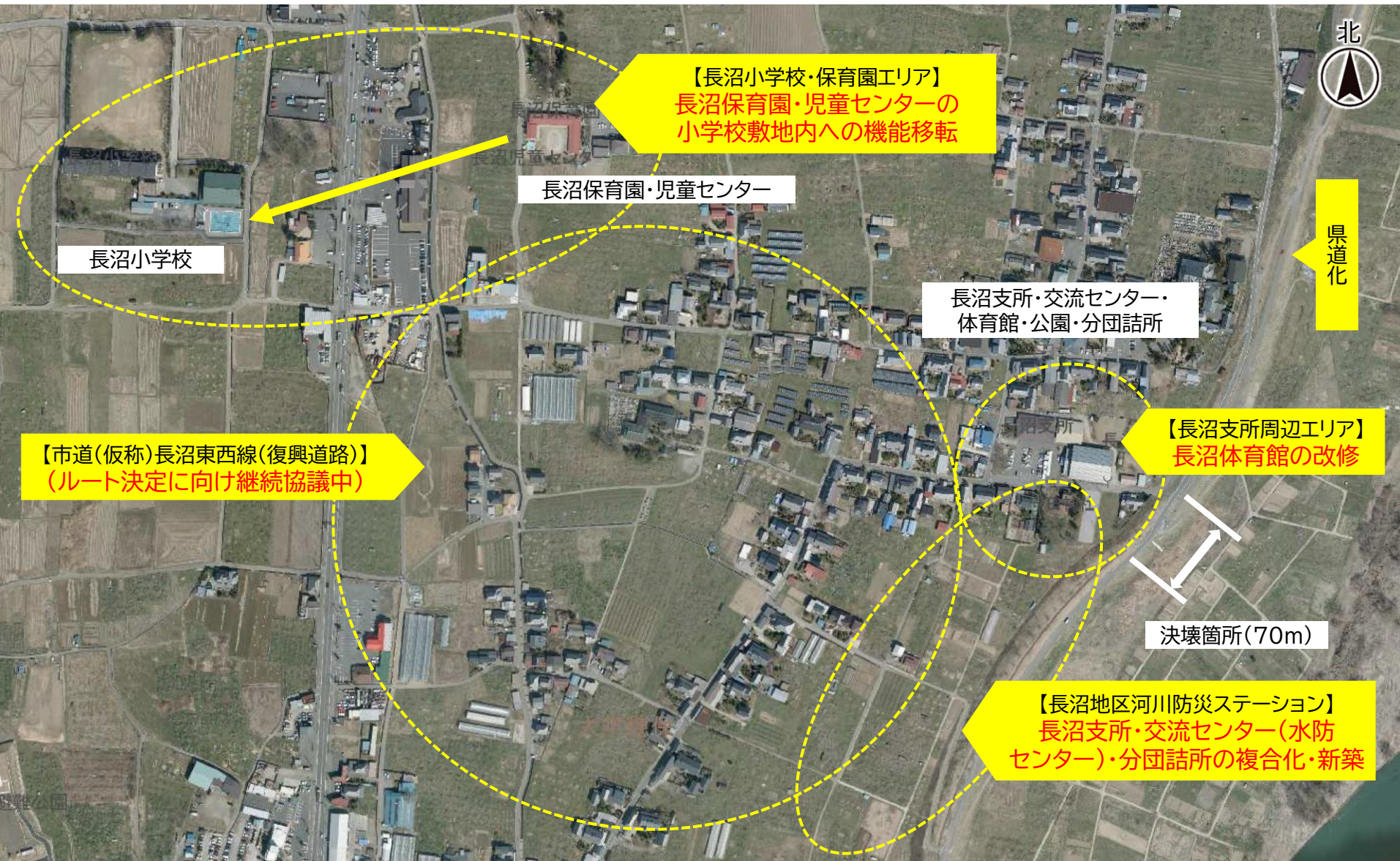
5 堤防決壊・越水箇所における水防活動

令和元年東日本台風により決壊、越水した区間において、堤防強化完了までの間、地区住民の安全を保持するため、大型土のう設置による水災の警戒、防御

【設置時期】 <一次> 9月中 <二次> 順次実施



- 長沼地区河川防災ステーション、長沼支所周辺エリア、長沼小学校・保育園エリアについては、整備基本方針決定
- 市道(仮称)長沼東西線(復興道路)については、ルートを地元と調整中



河川防災ステーションは、洪水等の発生時における河川管理施設保全活動及び緊急復旧活動の拠点として河川管理者が河川管理施設として整備しているもので、市町村等による水防活動を円滑に行う拠点として「水防センター」を併設

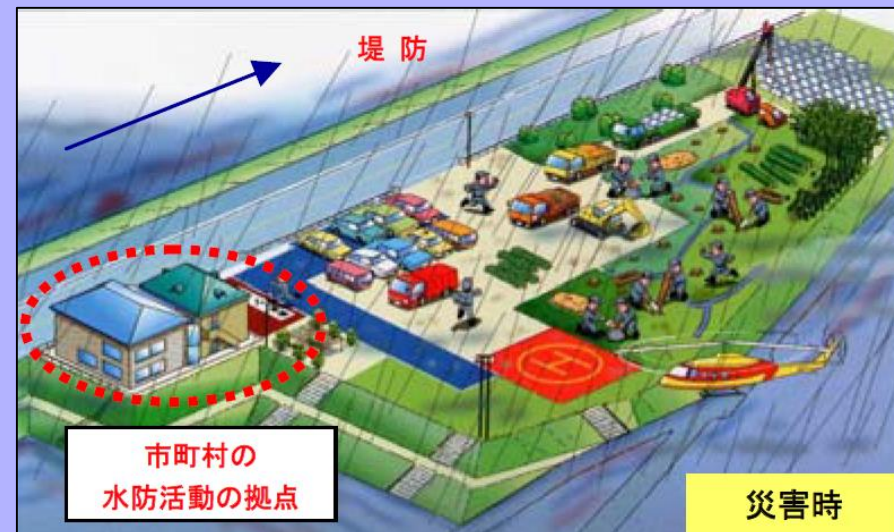
<出典:国土交通省千曲川河川事務所>

<平常時>

- 被災箇所の復旧工事のための材料備蓄
- 排水ポンプ車など災害対策車両、防災ヘリの拠点
- 水防活動の拠点(水防団)

<災害時>

- 地域のコミュニティースペースとして活用
- 水防活動の訓練などに利用
- 防災学習の場や川の情報発信拠点として水防センターを活用
- 市と連携したその他の取組み



河川防災ステーションの施工範囲については、地域住民の意見を踏まえて検討

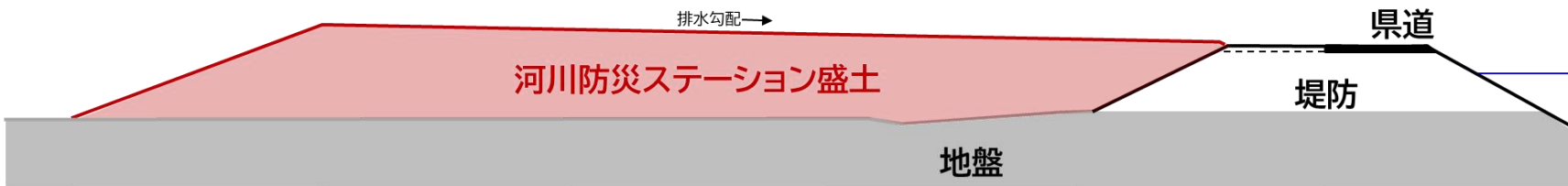
<出典:国土交通省千曲川河川事務所>



※河川防災ステーションの位置・範囲等の詳細については、今後変更となる可能性がある。

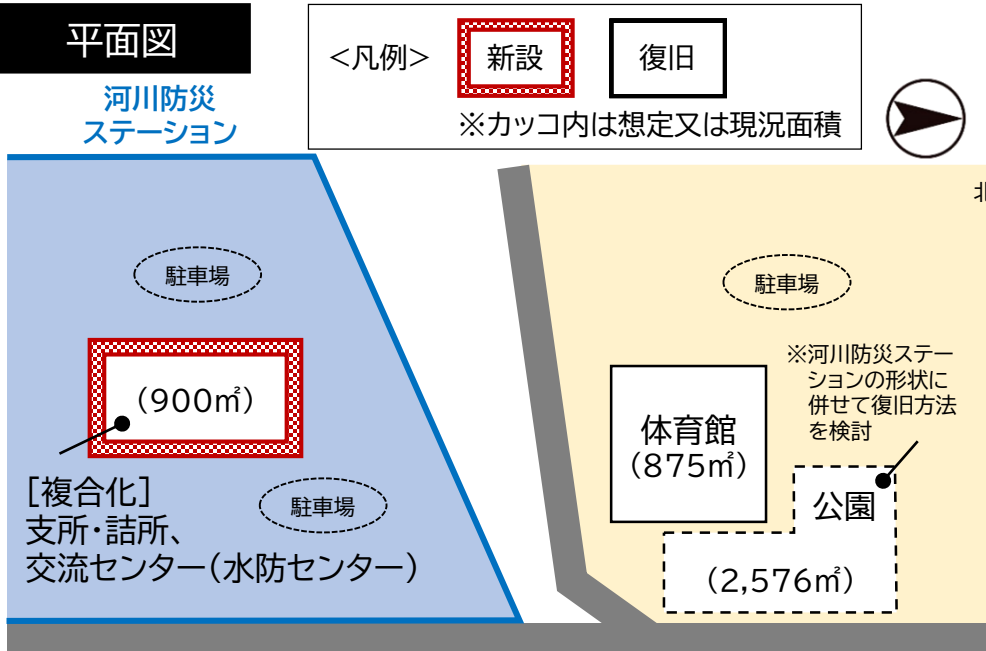
断面イメージ

※各面積や資材数量等の詳細については、現在検討中。
※防災ステーション上部の地形については、利用形態により変更が可能。



市からの支所等配置3案の提案に対し、長沼地区復興対策企画委員会・長沼地区住民自治協議会連名による回答書を受け、河川防災ステーション上への支所・詰所、交流センター(水防センター)の複合化による新築整備の検討開始

平面図



事業スケジュール(予定)

	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
支所・詰所 交流センター/ 水防センター 公園		埋文 本調査				▶
体育館						

特徴

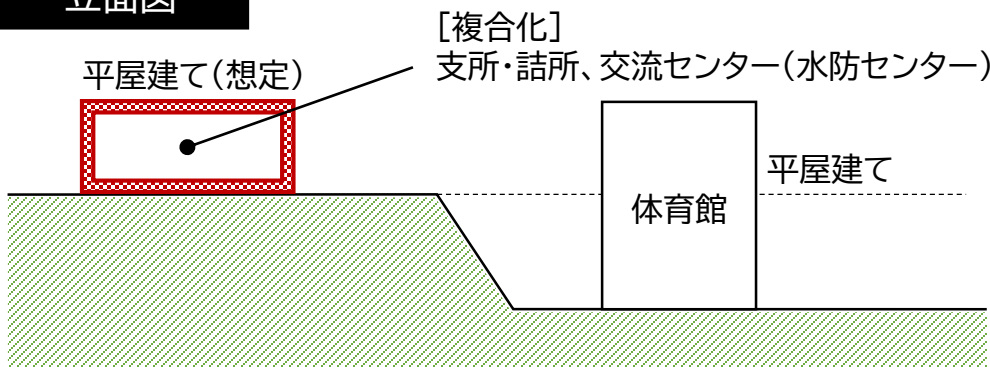
メリット

- 水害に対する安心感
- 内水被害にも効果あり
- 河川防災ステーションの広場も含めた有効活用ができる
- 平屋のため誰でも移動が容易
- 駐車場を広く取れる

デメリット

- ▼ 工期が長い(4~6年程度予定)
- ▼ 支所等へのアクセスのために、坂を上る必要がある

立面図



市からの長沼保育園・児童センターの小学校敷地内への機能移転の提案に対し、長沼地区復興対策企画委員会・長沼地区住民自治協議会連名による回答書を受け、提案どおりの検討開始



特徴

- メリット
- 災害時に互いに連携した安全対策が可能
 - 小学校敷地が盛土(1m)されているため、浸水の軽減が図られる
 - 児童が同じ場所に集まることによる所在の分断回避
 - 児童センター利用児童の移動中の事件・事故の危険性回避
 - 保育園・小学校の互いの育ちの理解促進(世代間交流)

- デメリット
- ▼ 周辺の道路事情(一部狭い箇所がある)

事業スケジュール(予定)

	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度

豊野地区住民自治協議会・令和元年度台風19号災害豊野地区災害復興対策委員会連名による要望を受け、「(仮称)豊野防災交流センター」として移転新築の検討開始



豊野地区を含めた長野市
東北部の消防体制等の
強化について検討

防災拠点機能を加え「(仮称)豊野
防災交流センター」として市営住宅
沖団地跡地へ移転新築

美濃和田団地(南側)への
災害公営住宅の統合整備

沖団地

豊野公民館

豊野支所

<令和2年度>	
こぶし	9月1日再開
豊野老人福祉センター	10月1日再開
豊野屋内運動場	10月1日再開
豊野体育館	10月2日再開予定
豊野中学校(校舎・体育館)	12月1日使用開始予定
<令和3年度>	
豊野支所(1階)	4月頃使用開始予定

豊野公民館

➤市営住宅沖団地跡地へ防災拠点機能を加え移転新築

<カッコ内は想定又は現況面積>

沖団地(拡大図)

事業スケジュール(予定)

R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度

豊野公民館(拡大図)



※上記の図は、防災交流センター・防災広場等の配置を示したものであり、実際の縮尺とは異なる。
 ※道路形状等については、今後の協議にて決定

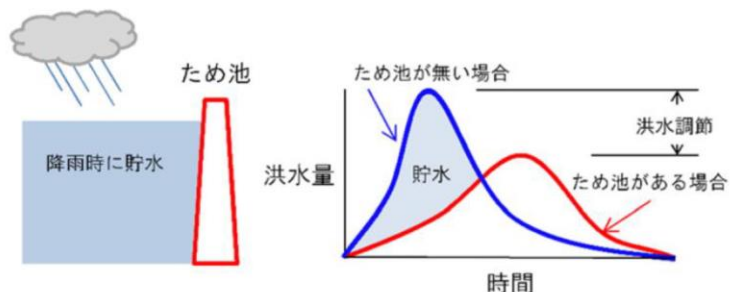
8 既存農業用ため池を利用した流出抑制対策

支川の流出抑制の取組として、浅川流域にて、関係者と調整の上、次の調整可能量を確保

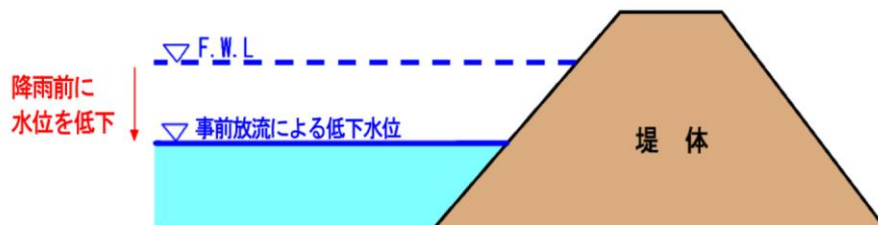
【調整可能量】 4月～盆前 : 約265,000m³ (17箇所)
盆明～ : 約489,000m³ (18箇所)

ため池の洪水調節

降雨時の流水をため池に貯留することにより、下流域の洪水を軽減している。



降雨予測等を基にため池の貯留水を事前に放流し、空き容量を確保する



事前放流イメージ

出典：ため池の洪水調節機能強化対策の手引き
(農林水産省 農村振興局)



浅川大池



若槻大池

9 主な道路の復旧状況

- 長沼地区の道路復旧は9月に全て完了
- 篠ノ井地区、若穂地区の道路復旧は、河川の復旧に伴い令和3年3月までかかる予定

篠ノ井地区



長沼地区



若穂地区



令和2年度末の策定完了を目指し、地域を強靱化する上での目標明確化、リスクシナリオ(最悪の事態)、施策分野の設定等の課題等の洗い出しなど策定作業を実施

名称

長野市国土強靱化地域計画

位置付け

国の国土強靱化基本計画や長野県強靱化計画と調和を図るとともに、国土強靱化の観点から本市の様々な分野の指針となる計画とする。

計画期間

令和3年4月から令和9年3月まで(予定)

内容

国による計画策定ガイドラインに規定されている次の事項を記載

- ①地域を強靱化する上での目標の明確化
- ②リスクシナリオ(最悪の事態)、施策分野の設定
- ③脆弱性の分析・評価、課題
- ④リスクへの対応策
- ⑤対応策について重点化・優先順位付け
- ⑥KPI(重要業績評価指標)の設定及びPDCAサイクルによる進捗管理・評価

地域の防災力の向上を図り、自ら命を守る行動がとれるよう次の事業を実施

- 自主防災組織の研修会や出前講座などで、洪水ハザードマップの活用方法を説明するとともに、実際に「※マイ・タイムライン」の作成作業を実施
- 広報ながの8月号に、各家庭で、いつ、どこに避難するかを事前に確認するため、「マイ・タイムライン」を簡略化した「わが家の避難行動確認シート」を掲載

※マイ・タイムラインとは

- マイ・タイムラインは、住民一人ひとりが考える災害時の行動計画のこと。
- 住民一人ひとりが、自分の家族構成や生活環境に合わせ、避難に必要な情報・行動を確認し、「いつ」「誰が」「何をするのか」をあらかじめ時系列で整理することで、スムーズな防災行動につなげる。

【マイ・タイムラインシート(長野市版)】

『マイタイムライン』をつくってみましょう
『台風が発生してから「災害が起きる」までの備えをいつから行動するが考えてみましょう』

警戒レベル	主な備え	備えの(例)
警戒レベル1 (早期注意情報) 台風直撃 3日前	このとき何をしますか	○テレビの天気予報を注意 ○今後の家族の進め方を決める ○家族全員の今後の予定を確認 ○1週間分の薬を病院に受け取りに行く ○買い物を済ませる
警戒レベル2 (注意報) 台風直撃 2日前	このとき何をしますか	○避難する時持って行く物を準備する ○家の周りに風で飛ばされるようなものがなければ確認 ○大切な物を浸水しない階に上げる ○テレビ・インターネット・メール等で雨や川のの様子に注意 ○携帯電話の充電
警戒レベル3 (避難判断水位) 避難準備・高齢者等避難開始 台風直撃 1日前	このとき何をしますか	○住んでいる付近の上流の雨量を確認する ○ハザードマップで避難場所、避難手段を確認 ○親戚の家に家族みんなで避難することを電話 ○通行止め情報やインターネットで確認 ○近所の人に避難の誘いをかける
警戒レベル4 (避難指示(緊急)) 避難準備・高齢者等避難開始 台風直撃 半日前	このとき何をしますか	○避難しやすい服装に着替える ○高台や安全な場所への避難の開始を判断 ○親戚の家への避難を完了 ○洪水の危険度をインターネットで確認 ○川の水位をインターネットで確認 ○土砂災害の危険度をインターネットで確認 ○高台への避難を完了 ○携帯電話で緊急連絡メールを発信 ○防災メールで、避難勧告、避難指示(緊急)を受信
警戒レベル5 災害発生(河川氾濫・土砂災害)	このとき何をしますか	命を守る最善の行動をとる ○身の上・履の反対側の部屋などの安全な場所で、身の安全を確保

※なお、ここで示した警戒レベル等のタイミングはイメージであり実際の災害とは異なることがあります。

【わが家の避難行動確認シート】

わが家の避難行動確認シート

防災行政無線が聞こえないとき
0120-479-231
※長野市、戸田市、塩尻市、大町市、信州新町、中込地区の放送を除く。

自分の居場所を伝える(災害用伝言ダイヤル)
171をダイヤル! 音声に従って録音

状況	警戒レベル	気象・避難情報	① 避難する必要があるか?	② 避難のタイミング(いつ逃げる?)	③ 避難場所
大雨発生の可能性	1	早期警戒情報	洪水ハザードマップで確認 ・ある() ・ない()		
重大災害の兆候	2	注意報	土砂災害ハザードマップで確認 ・ある() ・ない()		
重大災害の恐れ	3	避難準備 高齢者等避難開始	耐震性のない場所にいる場合は、外の広い場所への避難が必要です。		
重大災害の発生確率大	4	避難勧告 避難指示(緊急)			
災害発生	5	災害発生情報			

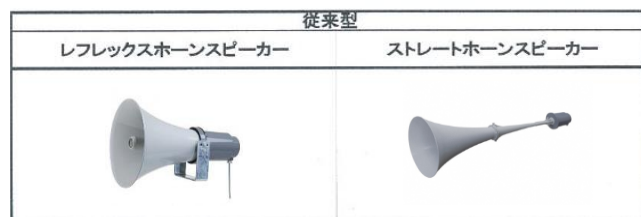
家族(頼りになる人)の緊急連絡先		持ち出すもの(避難所で手に入りくいもの)	
氏名	連絡先(職場・携帯など)	<input type="checkbox"/> アルコール消毒液	<input type="checkbox"/>
		<input type="checkbox"/> マスク	<input type="checkbox"/>
		<input type="checkbox"/> 防寒着	<input type="checkbox"/>
		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
誰を気にかける?	いつ 誰を 連絡先	気にかける人と一緒に避難する際の留意事項(持ち物など)	

防災行政無線(同報系)デジタル化整備事業を令和2年度完了予定

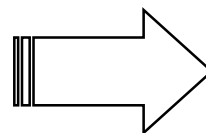
本事業により期待できる効果

音達区域(音の届く距離)が拡大

防災行政無線屋外スピーカーを62基増設するとともに、状況に応じ高性能スピーカーを採用することにより、今まで聞こえなかった、聞こえにくかった場所の改善。



音達距離約300m



音達距離約2倍



音達距離約600m

安否確認、被害状況が把握できる双方向通信機能が追加

- ・屋外スピーカーに連絡通話機能を備えることにより、市役所(危機管理防災課)等とリアルタイムでの情報交換が可能に。
- ・公衆回線がダウンしても、防災無線の回線を利用した情報伝達や収集が可能に。

スマートフォン等で利用可能な防災アプリを構築

防災に関する専用のアプリを構築し、登録された方が防災行政無線で放送された音声や文字テキストでの内容確認が可能に。

※上記以外にも、①防災行政無線機器の操作性の向上 ②遠隔制御装置(消防局及び17支所)の設置により、緊急の気象情報や災害情報等の速やかな情報発信を図る。

- 今後の災害対応につなげていくため、避難行動に関する市民アンケート、災害対策本部の対応状況、市職員の意見をもとに課題を抽出し、改善策等を検討し、令和2年7月に「令和元年東日本台風災害対応検証報告書」として公表
- 検証報告書により災害時の対応マニュアル等の見直しを進めている

検証報告書の概要

- I 令和元年台風第19号の概要
- II 災害対応と避難の状況
- III 災害対応の検証
災害への警戒、災害対策本部、気象・水位情報、被害情報 など41項目に整理し、検証
- IV 主な取組項目
特に大きな課題と考えられる8項目について、取組の方向性をまとめた

項 目	
1. 災害対策本部	5. 避難所の運営
2. 避難情報の発令・伝達	6. 避難所以外の避難者
3. 住民の避難	7. 災害廃棄物の搬出、堆積土砂の除去
4. 避難場所、避難所の開設	8. 避難所の閉鎖

14 生活再建支援・見守り支援等①

災害により居住用住宅が全壊するなど、生活基盤に著しい被害を受けた世帯に対して支援金を支給

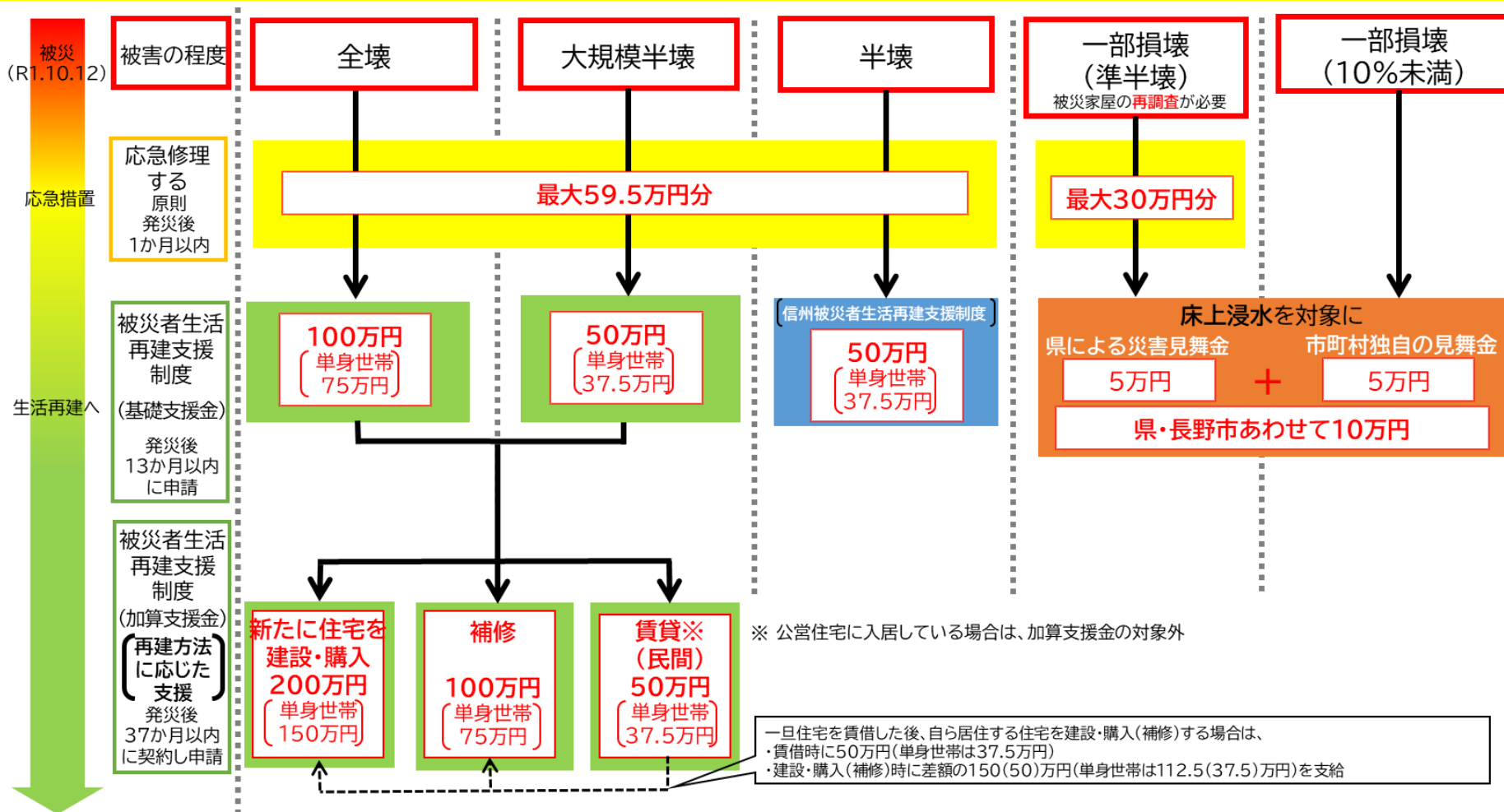
【支給件数】 ※いずれも令和2年9月1日現在

被災者生活再建支援制度＜全壊・大規模半壊対象＞ 1,998件(加算支援金699件を含む)

信州被災者生活再建支援制度＜半壊対象＞ 1,178件

長野県・長野市災害見舞金＜半壊未満の床上浸水＞ 249件

※被災者生活再建支援制度の申請期間については延長協議中



市被災者見守り支援担当職員、「長野市生活支援・地域ささえあいセンター」、関係機関等が連携して被災者支援を実施

【支援件数】 延べ4,714件(令和元年12月～令和2年8月)

基礎情報 (R2.8月末)		支援類型別支援件数 (延べ：R1.12月～R2.8月)				
支援対象	対象世帯数	訪問件数	電話	来所	その他	計
公営住宅等	128	832	112	9	171	1,124
建設型仮設	74	816	101	6	116	1,039
みなし仮設	507	1,520	466	9	278	2,273
在宅	86	166	26	5	81	278
計	795	3,334	705	29	646	4,714



基礎情報	相談内容								
支援対象	居住関係 (再建)	健康・ 医療関係	家族関係	居住関係 (仮設)	就労関係	介護・ 福祉関係	経済面	その他	計
公営住宅等	216	88	62	57	32	36	6	191	688
建設型仮設	114	141	74	27	21	39	11	196	623
みなし仮設	759	277	224	105	108	63	30	429	1,995
在宅	82	25	31	9	12	14	2	73	248
計	1,171	531	391	198	173	152	49	889	3,554

- 令和元年東日本台風の被災者のうち要件に該当する者については、医療機関等の窓口で「一部負担金免除証明書」を提示することで一部負担金を免除(支払い不要)
- 被災者の負担軽減のため、長野市国民健康保険加入者及び長野県後期高齢者医療被保険者が医療機関等で支払う一部負担金の免除期間を延長

一部負担金の免除期間

- 【当初】 令和2年9月30日まで
- 【延長後】 令和2年12月31日まで

免除対象者

- 住家が全壊、大規模半壊、半壊、床上浸水を被った場合（り災証明書による）
- 主な生計維持者が次の被害を受けた場合
 - ・ 死亡、行方不明又は重篤な傷病を負った場合
 - ・ 廃業、休止、失業により収入がないなどの場合

免除対象となる一部負担金

災害救助法が適用された令和元年10月12日から令和2年12月31日までに保険医療機関等で負担した一部負担金（保険診療外の費用を除く。）

- 被災に伴い転居した児童生徒に対しては、これまでと同じ学校へ通学することを希望する場合には引き続いて通学できるよう配慮するとともに、他の小・中学校への転入学を希望する場合には、弾力的な受入れを実施
- 避難先からこれまでと同じ学校へ通学する児童生徒に対しては、応急仮設住宅等の入居期間を目安として、スクールバス等の運行や公共交通機関の旅客運賃助成など支援を実施

被災による指定校変更等許可件数

15件(令和2年8月末現在)

スクールバス・タクシー運行校数・利用人数

4校・91人(令和2年8月末現在)

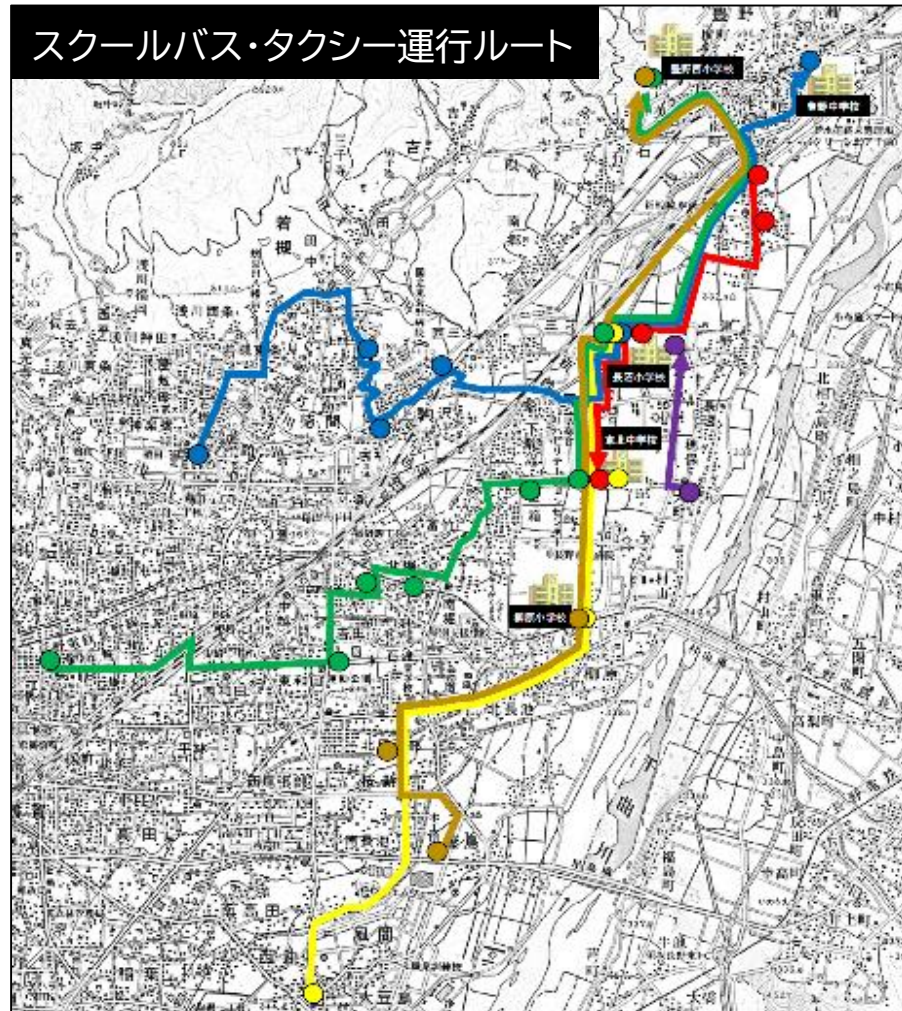
公共交通機関の旅客運賃助成件数

6校・23件(令和2年8月末現在)

※ 当初は、9校・53件の助成を行った。



スクールバス・タクシー運行ルート



※登校時は6ルート、下校時は児童・生徒の都合等を考慮し、7ルートを運行

- 被災地域におけるコミュニティの維持・再生や、災害関連地域の復興及び活性化に向けた活動を支援するため、住民自治協議会に対し、「復興支援金」を交付
- 地域コミュニティ活動の拠点となる被災した地域公民館の早期復旧に向け、地元負担を軽減するため、教育委員会(家庭・地域学びの課)で交付する地域公民館建設等事業補助金の交付を受けた地域公民館を対象に、地元負担分に対し「地域公民館災害復旧支援金」を交付

復興支援金の状況(令和2年9月末現在)

<単位:千円>

被災地区			建設型仮設住宅設置地区		
地区名	限度額	主な事業	地区名	限度額	主な事業
長沼	3,530	防災備品等整備、交流イベント等	第二	140	(未定)
豊野	3,360	区費減免分補助、備品購入、修繕等	若槻	290	(未定)
古里	710	防災物品購入、広報誌作成等	古里	90	交流イベント
篠ノ井	1,920	防災通信システム整備、防災マップ作成等			
松代	1,170	まつしろ復興応援秋まつり負担金			
若穂	520	記録集編纂、防災通信システム導入			

地域公民館災害復旧支援金の状況(令和2年9月末現在)

対象地域公民館 17館(長沼:6館、豊野:3館、篠ノ井:4館、松代:3館、若穂:1館)
 支援金支払済み:4館 交付決定済み:10館 未申請:3館

- 公費解体については、令和2年9月10日時点で申請に対して約50%の解体撤去が完了。今後も申請者の要望に応えながら、令和2年度中の解体撤去完了を目指す。
- 自費解体については、令和2年12月末までに申請に対する償還を完了させる。

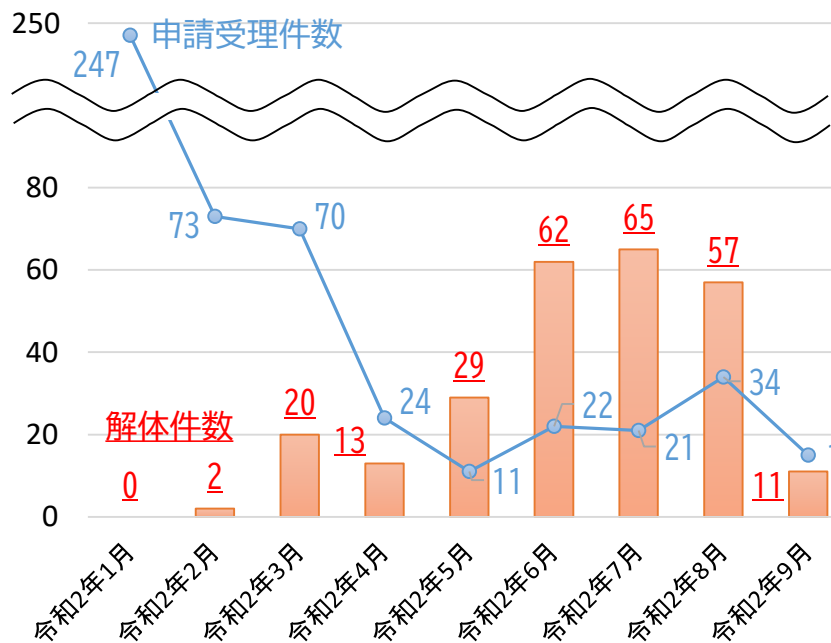
公費解体

市が所有者に代わって家屋等の解体・撤去を実施

申請件数：517件／解体件数259件(令和2年9月10日現在)

申請受付期間：令和2年1月10日～令和3年1月29日
(期限延長)

【申請受付と解体状況の推移】



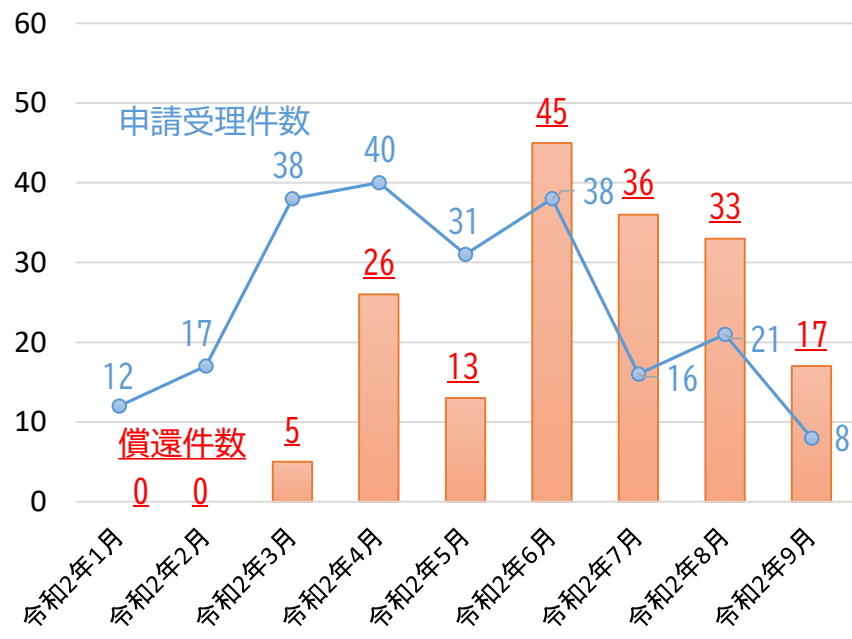
自費解体

所有者が既に実施した家屋等の解体・撤去工事について、要した費用の全部または一部を市が償還

申請件数：221件／償還件数175件(令和2年9月10日現在)

申請受付期間：令和2年1月10日～令和2年9月30日
※契約期限は令和2年6月30日まで

【申請受付と償還状況の推移】



- 発災直後から家庭から出た災害廃棄物の受入を実施
【搬入台数】 約76,000台（令和2年9月10日現在）
- 令和2年4月以降、災害廃棄物の搬入台数のうち3分の2が公費解体分
- 赤沼公園、篠ノ井運動場、青垣公園運動場については、現在、原状復旧に向け整備中

各災害廃棄物仮置場の状況（令和2年9月10日現在）

- | | |
|----------------|---|
| ・ アクアパル千曲 | 稼働中（令和元年10月23日～ / 合計搬入台数 約19,200台） |
| ・ 豊野東山第1・第2運動場 | 稼働中（令和元年10月16日～ / 合計搬入台数 約19,200台） |
| ・ 穂保高台避難公園南 | 閉鎖（令和2年 1月14日～ 3月22日 / 合計搬入台数 約3,800台） |
| ・ 赤沼公園 | 閉鎖（令和元年11月22日～12月15日 / 合計搬入台数 約15,600台） |
| ・ 篠ノ井運動場 | 閉鎖（令和元年10月14日～12月 1日 / 合計搬入台数 約10,300台） |
| ・ 青垣公園運動場 | 閉鎖（令和元年10月15日～11月17日 / 合計搬入台数 約7,900台） |



< 篠ノ井運動場(災害廃棄物搬入ピーク時) >



< 篠ノ井運動場(災害廃棄物撤去後) >

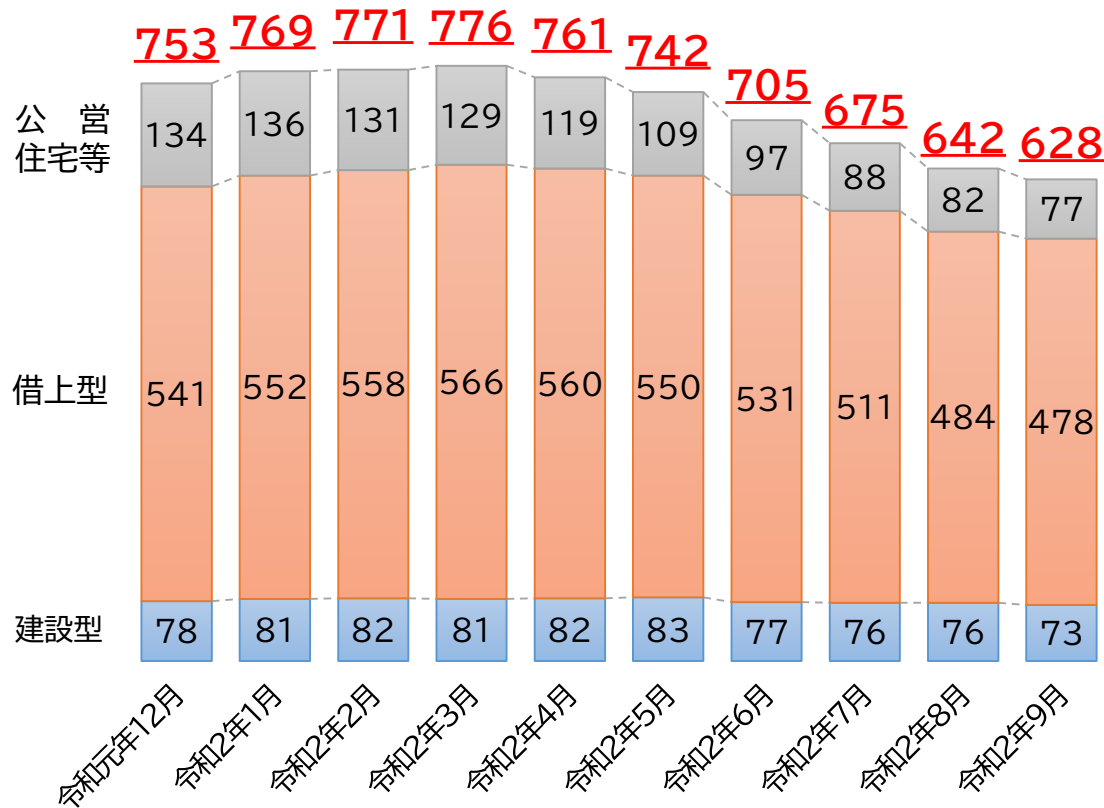
【応急仮設住宅】

令和2年9月末現在で、600戸超、1,400人超が市内外の応急仮設住宅に居住

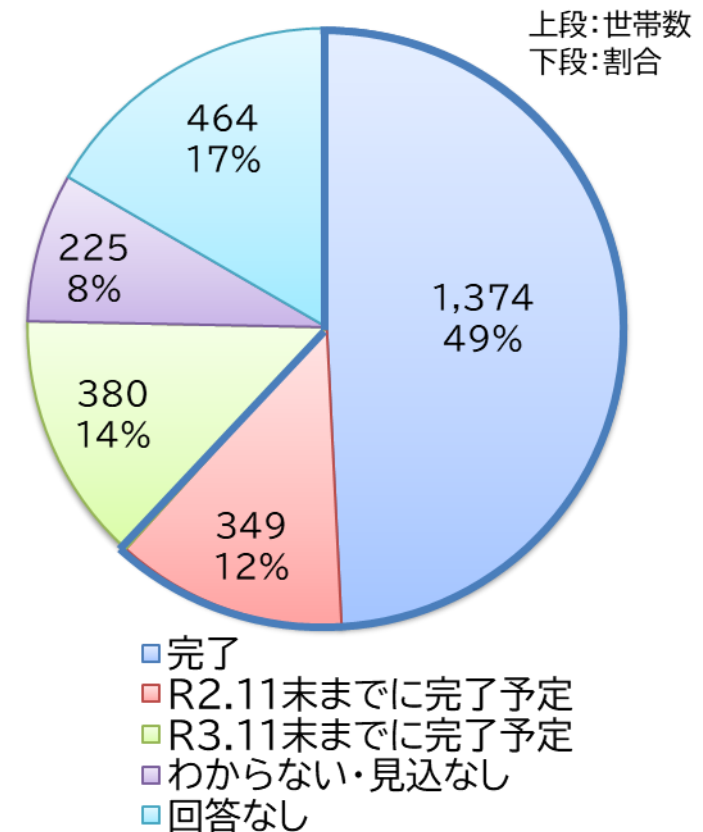
【住宅再建】

被災した半壊以上の世帯(約2,800世帯)で令和2年11月末までに住宅再建が完了する割合は61%

【応急仮設住宅等の入居状況の推移(単位:戸)】



【住宅再建の進捗状況】



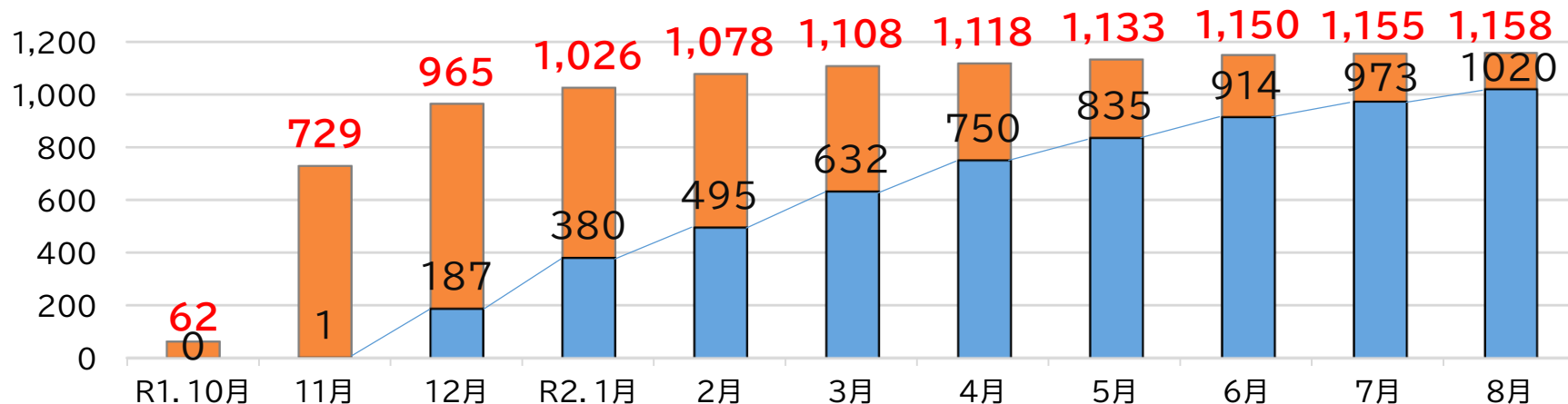
当面の住まいを確保するため、一部損壊(準半壊)以上の被害を受けた住宅を対象に、日常生活を送る上で必要な箇所の応急修理を実施

【申込件数】 1,158件(半壊以上1,139件、準半壊19件)

【完了件数】 1,020件(半壊以上1,002件、準半壊18件) ※いずれも令和2年8月末時点

【住宅の応急修理支援状況】

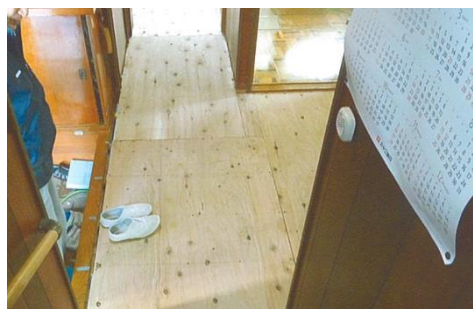
■ 申込み件数合計 ■ 完了件数合計



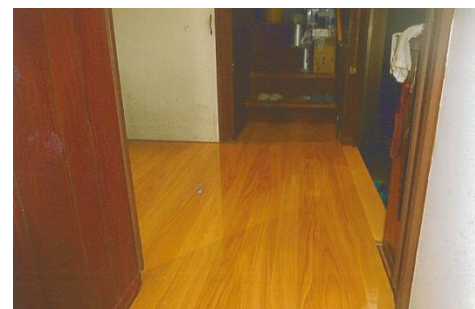
【修理例】



修理前



修理中



修理完了

建築士が現地調査や技術的なアドバイスを行う個別相談、様々な分野の専門家が一堂に会して相談に応じる住宅再建関連総合相談会及びセミナー方式の住宅再建講習会を実施

【建築士による現地調査を伴う個別相談】

実施時期	実施団体	実施件数
随時（令和元年11月～令和2年8月末時点）	県建築相談連絡会・県・市	88

【住宅再建関連総合相談会】

回数	日時	場所	内容	実施団体	参加組数
1	2月21日(金) 14:00～19:00	豊野支所	住宅と建築物に関する総合相談会	県建築相談連絡会・県・市	24
2	3月5日(木) 14:00～19:00	篠ノ井総合市民センター			7
3	4月26日(日) 10:00～14:00		カビに関する講演会・相談会		中止 (コロナ)
4	5月16日(土) 13:00～15:00	豊野支所	住宅と建築物に関する総合相談会		11
5	7月11日(土) 10:00～15:00	豊野公民館			19
6	9月12日(土) 10:00～15:00	柳原交流センター			14
7	10月24日(土) 10:00～15:00				予定
合 計					75

【住宅再建講習会(相談含む)】

回数	日時	場所	内容	実施団体	参加組数
1	7月30日(木) 19:00～21:00	昭和の森公園フィットネスセンター	「被災住宅の復旧」 新築・改修時のポイントと 資金計画について	県建築相談連絡会・県・市	4
2	8月1日(土) 14:00～16:00	市役所市民交流スペース			8
3	8月6日(木) 19:00～21:00	柳原交流センター			9
4	8月8日(土) 15:00～17:00	篠ノ井総合市民センター			4
合 計					25

23 災害公営住宅の整備①(整備予定地・スケジュール)

災害復興計画/1-1-2住まいの確保・再建支援

令和2年8月 敷地内建物解体工事(～12月)
// 9月 設計業務(～令和3年1月)

令和3年3月 建設工事着手
// 10月 竣工・引渡し、引越し



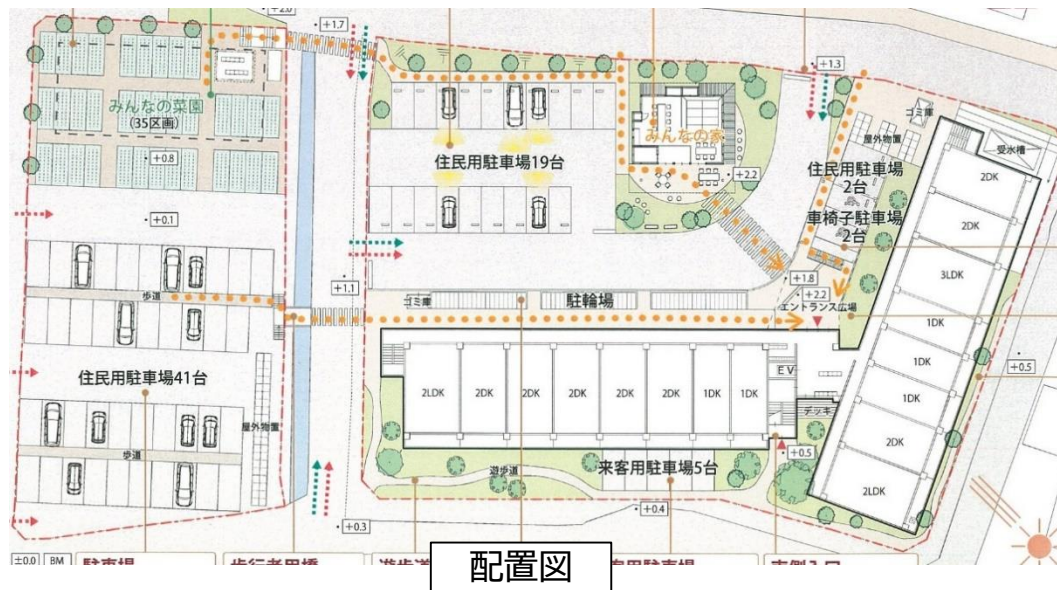
構造:鉄筋コンクリート造

規模:4階建て

整備戸数:63戸

延べ床面積:約3,460㎡

間取り:1DK、2DK、
2LDK、3DK



完成予想図

※令和2年9月30日現在 設計協議により変更の可能性がある
 ※整備戸数を76戸程度に増やす方向で検討中。

長沼小学校【床上浸水】

仮設校舎を使用し授業を再開していたが、令和2年8月31日から体育館、9月28日から校舎1階部分の使用を開始



<被災直後の理科室>



<復旧後の理科室>



<復旧後の体育館>

豊野中学校【床上浸水】

仮設校舎を使用し授業を再開していたが、令和2年12月から校舎1階部分の使用を開始予定



<被災直後の武道場>



<復旧中の武道場>



<復旧中の特別支援教室>

東北中学校<床上浸水>

一部教室を移設し授業を再開していたが、令和2年9月8日に校舎の復旧が完了



<被災直後の南校舎廊下>



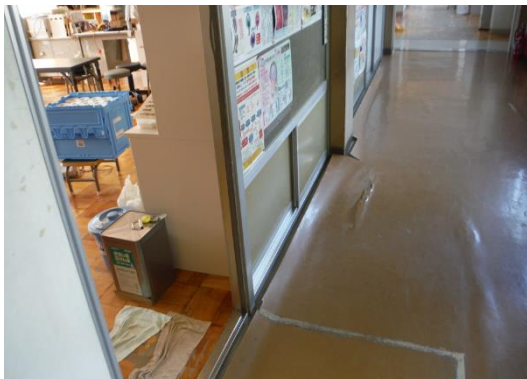
<復旧後の南校舎廊下>



<復旧後の北校舎理科室>

松代中学校<床上浸水>

一部教室を移設し授業を再開していたが、令和2年8月18日に体育館、8月24日に第三校舎1階部分の復旧が完了



<被災直後の第三校舎廊下>



<復旧後の第三校舎廊下>



<復旧後の「かりがね体育館」>

長沼保育園<床上浸水>

- 令和2年4月1日からプレハブ仮設園舎(長沼児童センターグラウンド)を使用開始
- 本復旧は、地元の意向を受け、長沼小学校敷地への移転を予定



<被災直後>



<仮設園舎保育室>



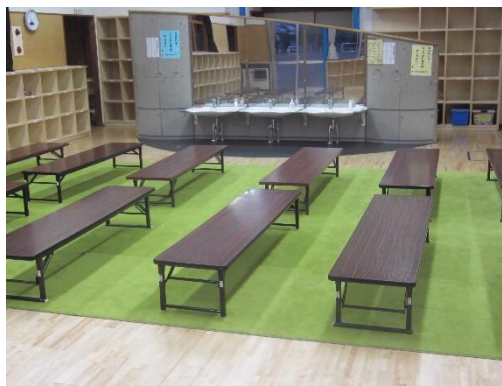
<仮設園舎外観>

松代花の丸児童センター<床上浸水>

松代小学校多目的教室で運営していたが、床・設備等の復旧が完了し、令和2年7月27日施設再開



<集会室(被災直後)>



<集会室(復旧後)>



<遊戯室(復旧後)>

長沼支所<全壊>

仮設庁舎を設置し、令和2年5月11日から供用開始



<被災直後:支所正面>



<仮設庁舎外観>



<仮設事務所>

豊野支所<床上浸水>

令和元年12月2日から3階で支所機能再開。本復旧は、令和2年度中を予定



<被災直後:1階フロア>



<1階フロア>



<3階仮事務所>

被災した事業者の事業復旧、事業継続に向けた相談支援を行うとともに、国、県及び市の補助制度の活用に関する周知を実施

グループ補助金



- 【補助内容】 被災中小企業の建物・機械設備の復旧に対する補助
直接被害のあった中小企業 補助率3/4、上限15億円
- 【申請受付期間】 令和元年12月18日～10月30日
- 【申請状況等】 長野市関連の認定数 16グループ239事業者(令和2年9月15日現在)

被災小規模事業者再建事業(持続化補助金)



- 【補助内容】 被災小規模事業者の事業再建に要する費用(復旧・販路拡大等)に対する補助
直接・間接被害を受けた小規模事業者 補助率2/3、上限200万円
- 【申請受付期間】 令和元年12月17日～令和2年1月17日、令和2年4月6日～7月10日
- 【申請状況等】 申請事業者数 199事業者(令和2年7月15日現在)

長野県地域企業再建支援事業補助金



- 【補助内容】 被災中小企業者の経営立直しと事業再建・再構築に要する費用に対する補助
直接・間接被害を受けた中小企業者 補助率3/4、補助額200～3,000万円
- 【申請受付期間】 令和2年4月1日～10月30日
- 【申請状況等】 交付決定者数 18事業者(令和2年8月28日現在)

長野市被災中小企業者支援事業補助金



- 【補助内容】 被災中小企業者の経営立直しと事業再建・再構築に要する費用に対する補助
直接被害を受けた中小企業者(小規模事業者除く) 補助率3/4、上限200万円
- 【申請受付期間】 令和2年4月15日～10月30日
- 【申請状況等】 申請事業者数 30事業者(令和2年9月24日現在)

融資制度(長野市中小企業振興資金融資制度)

被災中小企業者の資金繰りを支援するため、市融資制度の災害関連資金の金利引き下げを実施。

災害対策資金

【貸付対象者】 災害、異常気象等により被災した中小企業者等で罹災証明書の交付を受けた者

【貸付内容】 限度額：[設備]3,000万円 [運転]3,000万円

利率：年0.80% ← 改正前 年1.50%

期間：[設備]10年以内 [運転]5年以内

据置期間：1年以内

【申請状況】 22件(令和2年8月末現在)

経営安定特別資金(災害関連対策)

【貸付対象者】 経営の安定に支障が生じている中小企業者等で、次のいずれかに該当する者

- セーフティネット保証4号認定者
- 災害に起因して売り上げが減少している、罹災証明書の交付を受けた者

【貸付内容】 限度額：[運転]5,000万円 ※他の経営安定特別資金との合計額

利率：年1.50% ← 改正前 年1.80%

期間：7年以内(借換えに限り9年以内)

据置期間：2年以内 ← 改正前 1年以内

【申請状況】 25件(令和2年3月末現在)

災害関連資金に係る利子補給

市融資制度の災害関連資金に関し、令和元年10月12日から令和3年3月31日までの間に貸付を受けた中小企業者(直接被害を受けた者)の利子について、初回の償還から24月分(2年間分)を補給。

【申請状況】 22件(令和2年8月末現在)

農地の堆積土砂撤去、農道・用水路の復旧

農地の土砂撤去は、ほぼ100%完了(令和2年9月末現在)。農道・用水路は、令和2年度中完了予定。

- ・被災農地の土砂撤去・表土復旧 面積:約344ha 申請件数:1,365件 搬出土砂:約20万³m
- ・農道 土砂撤去(令和2年2月末完了):325路線、延長約100km 損壊:71箇所(実施中)
- ・用水路 損壊:76箇所(令和2年4月概ね完了、一部仮設対応)



<被災直後>



<復旧作業の状況>



<復旧完了>

営農再開・継続に向けた支援

農業用機械・施設の再取得、修繕等への助成金 申請:1,183人(令和2年9月末現在)



<被災直後のスピードスプレーヤー>



<新たに導入されたスピードスプレーヤー>

令和元年東日本台風被害に対する支援活動を通して築かれた被災者及びボランティア等による人の絆を育むことで、今後の復興を祈念するとともに、防災意識の向上を図りながら、様々な体験や交流を通じて、本市の復旧・復興状況を広く発信し、ボランティア等との関係人口や交流人口の拡大による地域経済の活性化に寄与するため、復興応援事業を実施

1 名称

いまこそ応援「がんばろうNAGANO」2020

2 運営組織

いまこそ応援「がんばろうNAGANO」2020実行委員会

＜構成員＞被災6地区住民自治協議会、県営業本部営業局、ながの観光コンベンションビューロー、県・市社会福祉協議会、県NPOセンター、ながのこどもの城、県建築相談連絡会、ながの農業協同組合、グリーン長野農業協同組合、りんごの湯共同企業体

3 実施期間

令和2年10月3日(土)から11月8日(日)まで(37日間)

① デジタルスタンプラリー

10月3日(土)～11月8日(日)

② ドライブスルー物産展

11月7日(土)～11月8日(日)

※事業の実施に当たっては、市中における新型コロナウイルスの感染状況が不透明であることから、「3密回避ニーズ」を満たす新しいイベント様式を取り入れることで安全・安心に配慮。



4 主な実施内容

1 デジタルスタンプラリー

- スマートフォンを使って、被災地や直売所8カ所を自家用車などで巡るスタンプラリー
- 発災直後の被災地映像・音声による被害状況等の説明を聞きながら被災地の「今」を知ってもらうとともに、地域経済の活性化を図る。



「デジタルスタンプラリー」チェックポイント

- 1 長沼支所・交流センター奥・堤防手前
- 2 長沼農産物直売所「アグリながめま」
- 3 豊野温泉「りんごの湯」※記念品交換所あり
- 4 北部スポーツ・レクリエーションパーク
- 5 南長野運動公園
- 6 ロイヤルホテル長野 ※記念品交換所あり
- 7 松代農業総合センター農産物直売所
- 8 温湯温泉「湯～ぱれあ」



各チェックポイントのQRコードを読み込み専用サイトを開く



スマホで被災時の状況を見る

自分の目で今の状況を見る



タップしてチェックイン

スタンプを押す

動画、音声もあり



4 主な実施内容

② ドライブスルー物産展

- 被災地の加工食品等を中心に安心して購入してもらえるドライブスルー方式で販売し、被災地を支援
- 購入までの待ち時間を活用し、会場内ミニFM放送や各被災地域ごとの動画を作成し、復旧・復興状況を発信。防災クイズ、防災グッズプレゼントなど、気軽に参加できるコンテンツを用意し、防災意識の向上を図る。

【会場】
柳原総合市民センター

【販売メニュー】
被災地区特産品や被災企業商品の詰合せを学生がデザインした「復幸BOX」に入れて販売

※当日の会場運営には、ボランティア団体も参加いただき、被災地支援を通して築かれた人の絆をさらに育み、今後の復興を祈念。



1 復旧・復興状況の発信と防災意識向上

- ・ミニFMによる復興状況の解説
- ・販売商品の紹介
- ・売れ筋情報
- ・防災クイズ
- ・防災食・グッズの紹介
- ・映像で見る被災地の今(復旧・復興状況)
- ・待ち時間を活用した長野市観光PR
- ・防災グッズプレゼント

2 販売メニュー

- ・被災地区特産品詰め合わせ
- ・被災企業商品
- ・郷土食など

3 ノバリティ

- ・防災セット



・レゴブロック



5 これまでの活動報告

令和元年東日本台風により校舎が被災などした市内小・中学校7校等へ株式会社ジャニーズ事務所から届けられた支援物資を贈呈。

- 小学校：古里小学校、長沼小学校、松代小学校、豊野西小学校 4校
- 中学校：東北中学校、松代中学校、豊野中学校 3校
- 介護福祉施設 ● 被災6地区住民自治協議会 ● ボランティア団体

※同社は、「Johnny's Smile Up! Project」の一環として、令和2年7月の豪雨によって被害を受けた日本各地に支援物資を贈っており、長野市復興祈念事業の趣旨にご賛同いただき、この度長野県へ届けられた支援物資の一部を長野市立小・中学校等に贈呈したものの。

